第７話「迷った時のセカンドオピニオン」

30 年も喫茶店をしていると、色々なお客さまがいらっしゃいます。

山下「いつものください。」

常連の山下さんは、アラフォーの営業マン。

この日、山下さんは店の奥のいつもの席じゃなく、古野さんの近くに座った。

古野さんもうちの常連で、姉御肌だから、みんなの相談役になってる。

山下「古野さんって、市民病院で医療事務をされてましたよね。」

古野「ええ。昨年、定年退職したけどね。」

山下「実は、家内の父親が前立腺がんになっちゃって…。」

古野「それは心配ね。」

私は、山下さんの前にブレンドコーヒーを静かに置いた。

山下「手術を受ける予定だったんですけどね、お義父さんの友達や親戚が、

自分は放射線で治療したとか、薬の治療のほうがいいとか、

どこの病院がいいとか色々言うもんだから、本人も家族も、

悩みだしちゃってね…。」

古野「みなさん、良かれと思ってのことだろうけど、

その方たちの話って、自分だけの例だったり、また聞きだったり、

一昔前の話なんてこともあるのよね。」

山下「それはあるかも…。」

古野「そういう不確かな意見で右往左往するより、セカンドオピニオンで、

他の病院の医師に話を聞いてみたらどうかしら？」

山下「えー。セカンドオピニオンって、主治医に言いにくいなー。」

古野「大丈夫よ。

私も勤めている時、セカンドオピニオンの書類は、ずいぶん扱ったわ。

それに、お父様が納得して治療することが大切でしょ。」

山下「でも…。」

古野「じゃあまず、病院のがん相談支援センターで相談してみたら？

主治医に、どうセカンドオピニオンの話を切り出すかとか、

病院の探し方とか、いろいろ教えてくれるはずよ。」

山下「がん相談支援センターですね！　助かりました！」

山下さん、晴れ晴れとした顔で店を出て行ったっけ。

それから１週間して…。

山下「こんにち…、あ、古野さん！」

山下さんが古野さんの隣に座った。

山下「おかげさまで、セカンドオピニオンを聞きにいくことになったんですよ。

家内が両親と一緒にがん相談支援センターに行ったら、

セカンドオピニオンの段取りなど、丁寧に教えてくれて、

すごく助かったって。ありがとうございました。」

古野「お役に立てて良かったわ。」

私は、山下さんの前にコーヒーを出した。

マスター「山下さん、これ、うちの店の新しいブレンドなんだよ。

今、古野さんの感想を聞いたので、山下さん、

セカンドオピニオンをお願いできるかな？」

山下「はい。心してのぞみます！」